
戦極姫 島津家の風来坊

マサムネ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

戦極姫 島津家の風来坊

【Nコード】

N3876V

【作者名】

マサムネ

【あらすじ】

応仁の乱から始まった。戦乱は全国に広がり群雄が割拠し天下統一の覇権を争い民たちは嘆き苦しみ戦乱を終わらす英雄（ヒーロー）を待っていた。そんな中九州のほうに向う者たちがいた。この物語は島津家の四姉妹の兄の天下を駆ける物語である。

主人公設定（前書き）

お久しぶりです。マサムネです。長く書けなくってすみません。
無双の方も頑張ろうと思います。新しく書いた作品もよろしく願
いします。

注意・この作品は作者の思いつきと自分のオリジナルで行くのでお
願いします。

主人公設定

主人公設定

名前：島津 丈瑠（しまづたける）

容態：戦国BASARAシリーズの前田慶次と同じ

趣味・特技：料理、楽器演奏、歌、昔話をする事

武器：登竜ス如 戦国BASARA2の慶次の第五武器である

愛馬：松風、戦国無双の松風と同じ

性格はBASARAの慶次と同じで家族と祭りや喧嘩と恋が大好き
生い立ちは島津家の長男で生まれ小さいころから身体能力と学習能力で周りを驚かせて「島津家の麒麟児」と言われた。

また誰にも優しくって人見知りもしないそして大胆なので初対面の相手でも直ぐ仲良くなる。あとこれが女性の時はそれが好意に変わる人が多い。

自分なりにこの乱世を見極めるため父と四姉妹を説得し諸国を巡る旅にでたそこで色々な物に触れ自分なりにこの乱世を終わらせるため、島津家に戻った。また、全国の大名とも関わりもある女性武将では好意に変わったり男性武将では男気に惚れて着いてくる者がいたが本人は拒むことなくむしろ自分にこれほど惚れこんでくること嬉しく思っている。

主人公設定（後書き）

現実も小説も頑張ろう
感想よろしく。

序章

時は戦乱の世、群雄が割拠していた。ここは九州の島津家の領土に続く街道の茶店そこにどこか派手な団体が入た

???「うん！　こいつぁ旨いたんだね」そう言うこの人物、身長は一般男性よりでかく容態も好青年でイケメンだ。

???「キキツ！」と彼の肩から一匹の小猿が出てきた。

???「お！夢吉お前も食うか」どうやらこの小猿は夢吉と言うらしい

???「松風も食うかい？」と彼が言う方に普通の馬よりも何倍も大きい毛並みも黒く美しい鬣も銀色で神秘的に輝いていた。

また、巨大な鞘に収まった巨剣が地面に刺さっておりその鞘には登龍が描かれてた。　この男の名は島津　丈瑠とある理由で九州の島津領に向う途中だった。

???「丈ちゃん」と彼の後ろから女性が抱き着いて来た。

その彼女はの頭は派手に飾りがしており、服装も目のやり場に困るような姿だ顔立ちも男を魅了するほど淫乱な美しさを持っておりそして何より

バイーン！

はちきれんばかりの胸が道行く男ども釘付けし、たまに前かがみになる者いた。

丈瑠「なんだい？慶次ちゃん」丈瑠が言うこの女性は世に傾奇者として有名な前田 慶次その人である。

慶次「いやねー丈ちゃんのお団子が美味しそうだから私もほしな〜って思ってたね」

丈瑠「そうかぁーじゃあーん」

慶次「あ、あーん／＼／＼」慶次は丈瑠の横に座り頬を赤らめ嬉しそうに口を開けて待っていたが

???「あーん、もぐもぐ確かにこれは美味しいです」

慶次「ああああ！？ズルイ半兵衛ちゃん！私が食べようと思ったのに！」

???「半兵衛さんは魅力的な誘惑に逆らはないところの人なのですよ」

そう言うこの少女、幼いが顔立ちでおっとりした性格をしていた。

この人物は戦国時代に天才軍師と呼ばれ高い 竹中半兵衛である。そのあと半兵衛は丈瑠の膝に行きちょこんと座った。

慶次「もう半兵衛ちゃんもうまた丈ちゃんのお膝に座る」と慶次は頬を膨らませた。

半兵衛「半兵衛さんは丈瑠さんが好きですからだか座ってるのです。」

そう言う半兵衛は嬉しそうに言った。でも、慶次は少し不満そうで羨ましいだった。

それを見た丈瑠は自分の食べかけの団子を一個取った

丈瑠「慶次ちゃん、慶次ちゃん」トントンと慶次んの肩叩いた。

慶次「なにい丈ちゃウム！」丈瑠はその団子を慶次の口につけた。

丈瑠「俺の食べかけの団子だけど今はこれで許してね」

慶次「コクンコクン／＼／＼」と嬉しそうに慶次は頷きました。そういつた感じでのんびりと茶を楽しんでいた。

半兵衛「しかし、3人とも遅いですね」

慶次「そうね、でも、そろそろ帰ってきてもいいころよ?」

丈瑠たちは他の仲間に情報収集を命じこの場所で落ち合うため待っているのだ。

丈瑠「しかし、この街道の桜はいつ見てもいいもんだ。皆は元気にしてるかな?」丈瑠はこの街道に桜の木を見て故郷のこと思っていた。

慶次「しかし、ここの街道の桜は綺麗よね」

半兵衛「半兵衛さんもこの景色には同感です。」

丈瑠「だろう!俺もここ出る時もこの街道を通ったんだ。そして、帰る時もこの街道を使って帰るって決めてたんだ。」そう言って3人で桜を見ると

????「おやかさまああ!」と声がしたら急に風が吹き桜の花

びらが舞い上がる丈瑠たちは思わず目を瞑った。少したってから目を開けると

「???「えへへへ、おやかたさまあ／＼／＼」と先ほど丈瑠の膝に座っていた。半兵衛は横に座っており

変わりに肌は薄く茶色で腹や両腕には赤い刺青があり腰の後ろには巨大なクナイを持った少女が丈瑠に前から抱きついていた。

丈瑠「オオ！段蔵ちゃんじゃないか情報収集はいいの甲斐？」

段蔵「うん！情報もバッチリだよ。それに早くおやかたさまに会いたいと思ってたし」

彼女は加藤段蔵もとは無所属のくノ一だったが今は丈瑠のくノ一として仕えてる。

丈瑠「そういえば、アイツはどうした？」

段蔵「ああ、それだったら今「今着いたところだぜ段蔵」ありや遅かったすね」

「???「お前が速すぎなんだよ、丈瑠様ただいま戻りました。」

丈瑠「おう、一馬お帰り、首尾はどうだった？」

「???「はい、首尾は上々です」この男性は身長は丈瑠と同じ位で顔は誰から見ても好青年で髪が長いのか後ろで一まとめにしていた。この人物は大道一馬彼も丈瑠に仕えてる身だ。

一馬「それで丈瑠様この先でどうやら合戦あるようです。何でも島津家と何処かの軍勢とやるみたいです。」

丈瑠「へえーそうなんかい、おっ？」丈瑠が答えるとその先から煙が上がるのが見えた。

丈瑠「見なよ恋の花火が上がったみたいだ。」と勢いよく立ち上がった。そして、自分の得物を持って地面に突き刺さった部分を足で蹴り丈瑠の肩に乗つけた。

丈瑠「命短し！人よ恋せよ！戦は戦人の華舞台よ！いっちょ俺らも行ってみよかね！」

そして丈瑠は松風に跨った皆それを追って合戦と言う舞台に向った。季節は春この者祝福するが如く桜は穏やかに靡いていた。

序章（後書き）

やっと出来た。次回は家族と再会です。
では、さらば！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3876v/>

戦極姫 島津家の風来坊

2011年8月3日11時09分発行